

科目名 (英)	美容・老年鍼灸実技 Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	笹尾 可那
		授業形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分 曜日・時限	前期
学科・コース	鍼灸科						
【授業の学習内容】 鍼灸治療を求める患者層は広く、そのニーズ也多岐にわたる。その多様なニーズに応える知識、技術を有することが、鍼灸師としての活躍の幅を広げ、多くの患者さんのADLやQOL向上につながる。 本科目では、多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容分野・老年分野)を養うため、美容分野においては、美容鍼灸の概要や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術について、老年分野においては、高齢者に特有な疾患、症候の概要とはりきゅう施術の方法、機能訓練について学習する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 ＜美容分野＞ ①美容鍼灸の基本となる中医学的な考え方(整体観念、気血津液と美肌、五臓と美容)について説明できる。 ②代表的な美容トラブルに対する対処法(はりきゅう施術、食事指導等のアドバイス)が実践できる。 ＜老年分野＞ ①加齢による機能低下とそれに起因する症候(ロコモコティブシンドローム、老年症候群)について説明できる。 ②①に対する対処法(はりきゅう施術、機能訓練)が実践できる。							

授業計画・内容	
1回目	中医美容鍼灸の特徴や考え方を理解し、説明できる。
2回目	顔鍼で用いる顔面の取穴を実践する。
3回目	気血津液弁証を用いた体内美容を理解し、説明できる。
4回目	顔鍼のリスクマネジメントと基礎知識(解剖)を理解し、施術にあたることができる。
5回目	臓腑弁証を用いた体内美容を理解し、説明できる。
6回目	フェイスラインのリフトアップを目的とした顔鍼を実践する。
7回目	ニキビ・吹き出物の治療を理解し、説明できる。
8回目	目元のたるみ、くすみ、しわに対する顔鍼を実践する。
9回目	肥満の治療を理解し、説明できる。
10回目	フェイスラインと目元を合わせて全体の顔鍼がバランスよくスピーディに打てるようになる。
11回目	脱毛症の治療を理解し、説明できる。
12回目	美容鍼灸におけるカウンセリング技術を理解し、実践できる。
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	顔面の解剖や取穴の確認をしておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	中医美容はこれまで学んできた東洋医学を基礎とし、美容分野に応用させたものです。 気血津液弁証や臓腑弁証などを通して、これまで学んできた内容の復習もできますので、美容分野で皆さんの持っている知識をどう活かせるか考えながら取り組んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	美容・老年鍼灸実技	必修	必修	年次	3年次	担当教員	齋藤 浩吉
-----	-----------	----	----	----	-----	------	-------

科目名 (英)	美容・高齢者鍼灸実技 Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	選択	必修	学年	3学年	担当教員	片岡 浩二
学科・コース	鍼灸科	授業形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
鍼灸治療を求める患者層は広く、そのニーズも多岐にわたる。その多様なニーズに応える知識、技術を有することが、鍼灸師としての活躍の幅を広げ、多くの患者さんのADLやQOL向上につながる。 本科目では、多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容分野・老年分野)を養うため、美容分野においては、美容鍼灸の概要や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術について、老年分野においては、高齢者に特有な疾患、症候の概要とはりきゅう施術の方法、機能訓練について学習する。 齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】							
<美容分野> ①美容鍼灸の基本となる中医学的な考え方(整体観念、気血津液と美肌、五臓と美容)について説明できる。 ②代表的な美容トラブルに対する対処法(はりきゅう施術、食事指導等のアドバイス)が実践できる。 <老年分野> ①加齢による機能低下とそれに起因する症候(ロコモコティブシンドローム、老年症候群)について説明できる。 ②①に対する対処法(はりきゅう施術、機能訓練)が実践できる。							

授業計画・内容	
1回目	ロコモティブシンドロームや歩行機能に関する評価方法と運動指導について理解できる。
2回目	ロコモティブシンドロームや歩行機能に関する評価方法を実践し、結果を基に状態の説明と必要なアドバイスができる。
3回目	歩行機能に支障をきたす運動器疾患(膝痛を中心に)への鍼灸治療を実践できる。
4回目	歩行機能に支障をきたす運動器疾患(膝痛を中心に)への鍼灸治療を実践できる。
5回目	老年症候群、口腔機能に関する評価方法と運動指導について理解できる。
6回目	口腔機能に関する評価方法と運動指導、口腔機能障害への鍼灸治療を実践できる。
7回目	要介護高齢者への鍼灸治療に必要な介助法(杖歩行者の歩行介助、車いすからの立ち座りの介助など)を実践できる。
8回目	機能訓練指導員の役割および個別機能訓練の評価、指導計画について理解できる。
9回目	要介護高齢者への鍼灸治療に必要な介助法(衣服の着脱介助、ベッド上の体位変換介助など)を実践できる。
10回目	個別機能訓練の評価、指導計画立案を実践できる。
11回目	介護分野における鍼灸師の役割と擦過鍼の治効理論について理解できる。
12回目	認知機能低下に対する擦過鍼療法を実践できる。
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間 外学習	2年次前期の「高齢者の心理と支援」で学んだ、加齢に伴う身体的変化についての復習が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	